

委員会による計画書(目論見)の評価のポイント

資料3

委員会による各計画書(目論見)の評価のポイントは下表のとおり。

港湾名	委員会による評価のポイント
各港共通	○計画書(目論見)の募集要項に従って必要事項が提案されていることを確認した。
横浜港	○既存ストックや既往計画を活用し、発着港としての国際クルーズ拠点を強化するという現実的な計画である。 ○横浜港を拠点とし、東日本を含む日本全国へのクルーズ展開の拠点となっている。 ○クルーズ船社と既往計画の事業者は、クルーズターミナル整備に係る全体的な構想やその実現に向けた将来の投資を踏まえ、密接に連携し、調整を図る必要がある。
清水港	○清水駅周辺の市街地に近く、ウォーターフロント地区再開発方針と方向性が一致した計画である。 ○既存倉庫を活用した旅客施設の整備や、管理運営に係る地元企業との連携など、地元との調整が図られている。 ○ウォーターフロント地区の再開発を活かす等により、観光客の地元への定着や地域経済への貢献について留意する必要がある。
佐世保港	○アジアのゲートウェイとして、多くのクルーズ船を受け入れる計画である。 ○限られた開発空間を有効活用するため、既存の三浦地区の他、浦頭地区を活用することとしている。 ○新たにクルーズ拠点となる浦頭地区については、クルーズ船の寄港が地域経済の活性化や地域の観光振興につながるよう留意すべきである。
八代港	○これまで物流中心の八代港において、インバウンド需要の増加に合わせて観光機能を付加する計画になっている。 ○物流利用から人流利用への土地利用の転換を図っていく上で、計画地区内の関係者との調整に留意すべきである。 ○クルーズ船の寄港がもたらす経済効果を地元で取り込むことに留意すべきである。
本部港	○沖縄本島北部地域の主要な出入口であり、豊富な観光資源の魅力を活かした計画である。 ○供用開始に向けてCIQ機能の確保が必要である。
平良港	○リゾート地としての魅力を活かして国際クルーズ拠点を形成する計画となっている。 ○係留施設と旅客施設との交通手段の確保等に留意する必要がある。